

# 鳥取県における古墳出土人骨

高田 健一

## はじめに

古墳研究においては、埋葬施設や副葬品など古墳に関わる諸要素が、どのような被葬者に伴うものかが重要な論点である。しかし、現実には被葬者そのものの情報源としての人骨が遺存する例が少ないため、被葬者を年齢、性別、経歴不明の人物とせざるを得ない場合が多い。それに、人骨がなければ、同じ棺に複数人を埋葬する行為や、いったん骨化させてから埋葬する再葬のような行為も認識できない可能性があり、古墳に関する認識を著しく狭めてしまうであろう。

ところが、人骨の調査、鑑定には専門的な訓練が必要なため、多くの場合、人類学や法医学などの専門家に取り扱いを依頼することになり、その結果がその他の考古学的な調査成果と統合されない事例も散見される。本論は、これまでに鳥取県において人骨が出土した古墳を集成するとともに、基礎的な情報整理を行ない、今後の総合化に備えようとするものである。

なお、清家章（2010）にしたがって、古墳の埋葬施設を次のように呼称する。すなわち、古墳築造の契機となったと考えられるものを「主要埋葬施設」と呼ぶ。墳丘内に位置するが、主要埋葬施設よりも時間的に後、あるいは墳丘の中心から外れた位置に設置されたり、小さく作られたものは「副次的埋葬施設」、周溝内や墳丘外に位置するものは「周辺埋葬施設」と呼ぶ。

## 1 各地域の概要

鳥取県内で人骨が出土した古墳（単独の埋葬施設を含む）は169基あり、少なくとも348人分の出土が知られる。内訳は、東部の因幡地域27基、67人、中部の東伯耆地域99基、145人、西部の西伯耆地域43基、136人である。このような地域差は、発掘調査の量や性格を反映している面があり、東伯耆地域では長瀬高浜遺跡の事例が多く、西伯耆地域では横穴墓の事例が半数近くを占める。

これらのうち、年齢や性別のいずれかでも判明するものを抽出すると、128基、275人分があり、因幡地域では17基、37人（表1）、東伯耆地域では75基、114人（表2-1～3）、西伯耆地域では36基124人（表3-1～3）である。これが被葬者像を検討する基礎資料となる<sup>(1)</sup>。以下、地域別に概要を整理する。

因幡地域では、年齢別に見ると<sup>(2)</sup>、壮年、熟年の順に多く、青年がこれに次ぐ。老年はないが、幼児、小児がごく少数ある。これらの子供は、成人と同一の棺に葬られたものも存在するが、単独の棺に埋葬された例があって注意を引く。例えば、六部山28号墳は径17mの円墳で、主要埋葬施設の木棺には人骨が遺存していなかったが、隣接する内法長77cmの箱式石棺に2歳前後の幼児骨が集積された状態で出土した。これは成人と同様の材質や構造をもつ棺に埋葬される最小年齢を判断する基準になる。後述する東伯耆地域では、半裁した須恵器甕を利用した

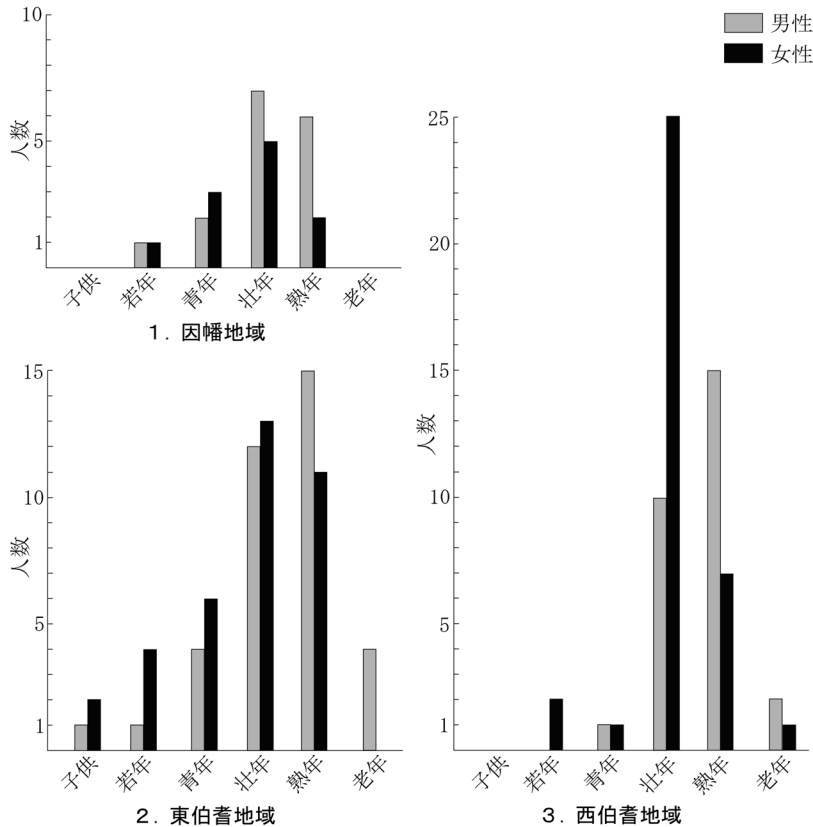


図1 各地域出土人骨の年齢と性別

墓に生後6ヶ月未満の乳児が葬られており、乳児段階は、成人と異なって土器棺が用いられた可能性がある。性別鑑定が行なわれた37人のうち、男性は21人に対し、女性は11人、不明5人（うち子供が3人）で、男女差が大きい。古墳被葬者が男性に偏っている可能性も考えうるが、男性が顕著に多いのは熟年世代であり、それより若い世代では男女差は大きくないか、逆に女性が多い（図1-1）。この傾向

は伯耆地域でも認められ、男女差が生じるのは概ね高い年齢層においてである。因幡地域では資料数が少ないために、このような不均等が生じた可能性がある。

次に、東伯耆地域では、乳児～老年まですべての世代の埋葬が確認されている他、事例数や埋葬施設の種類も多いため、資料的価値が高い。壮年、熟年の順に多い点は因幡地域と同様であるが、若年がこれに次ぐ点が大きく異なる。

乳・幼児、小児合わせて子供が10人存在する。成人と同じ棺に葬られた者もいるが、むしろ多数派は単独の棺に葬られており、周辺埋葬で子供の比率が高い。東伯耆地域で特徴的なのはこの周辺埋葬の多さであるが、年齢や性別が判明する周辺埋葬の15人のうち、子供は7人でおおよそ半数を占めている。10代の若年層4人も含めると、かなり若い世代に偏っていると言えよう。これらの周辺埋葬の人々は、主要埋葬施設被葬者の子弟と考えられているが（清家前掲）、副次的埋葬施設に葬られる少数の子供が存在することを踏まえると、子弟のうちにも階層差や系譜差など埋葬場所を区分する原理が存在した可能性を窺わせる。

性別鑑定が行なわれた113人のうち、男性は47人に対し、女性は45人、不明は21人であった。21人のうち、性別鑑定困難な子供が7人、性差が顕著に出ない可能性のある10代の若年層が7人で、性別不明の成人は7人に過ぎない。因幡地域と異なって男女差はほとんどないが、むしろこれが西日本の標準と考えられる。

表 1 因幡地域の古墳出土人骨

No.	古墳名	所在地	墳形	規模	埋葬施設の種類	人骨 No.	性別	年齢	順	備考 (副葬品)	文献
1	浦富 3 号	岩美町浦富	?	?	横穴式石室 (箱式石棺)	A	女	壮年		(刀、鏃、弓、刀子)	1
B						男?	壮年				
C						女?	壮年				
4	緑山 2 号	鳥取市福部町	○	?	箱式石棺		男	熟年		再葬 (刀、鏃、刀子、斧)	2
5	糸谷 3 号	鳥取市国府町	□	20*18	1 号箱式石棺	1 号	男	若年	3	1 号に前頭縫合 (刀子)	3
6						2 号	女	壮年	1		
7						3 号	?	小児	2		
8					2 号箱式石棺	4 号	男	熟年	3		
9						5 号	男	熟年	1/2		
10						6 号	男	壮年	1/2		
11					3 号箱式石棺	7 号	男	熟年	1		
12						8 号	女	熟年	3/4		
13						9 号	男	壮年	2		
14					5 号箱式石棺	10 号	女	熟年	3/4		
15						11 号	?	成人		(針)	
16						12 号	?	熟年			
17	面影山 33 号	鳥取市面影	○	径 18	1 号箱式石棺	1 号	男	青年	3		4
18						2 号	女	青年	2	インカ骨	
19						3 号	男	壮年	1	インカ骨	
20	広岡 73 号	鳥取市広岡	○	径 8	第 1 箱式石棺		男	?			5
21	六部山 26 号	鳥取市久末	○	径 13	箱式石棺		女	若年		(玉)	6
22	六部山 28 号	鳥取市久末	○	径 17	第 1 箱式石棺		?	幼児		再葬 (針?、玉)	
23	六部山 45 号	鳥取市久末	○	径 18	第 1 箱式石棺		女	青年		再葬? (鏡、玉、鉄環)	7
24					第 2 箱式石棺		男	壮年		再葬? (剣、刀子)	
25					第 3 箱式石棺		?	小児?			
26	古郡家 1 号	鳥取市古郡家	●	長 92	北箱式石棺		男	壮年		再葬 (鏡、短甲、剣、鏃、刀子、鉈)	8
27					南箱式石棺		男	熟年		再葬	
28	古郡家 3 号	鳥取市古郡家	○?	?	箱式石棺		男	?			9
29	米里	鳥取市米里	?	?	?		男	?			9
30	円護寺 21 号	鳥取市円護寺	○	径 7	箱式石棺	No. 22	女	壮年	2	(刀子)	10
31						No. 23	男	熟年	1	(鏃)	
32	里仁 32 号	鳥取市里仁	□	14*10+	第 2 箱式石棺		男	熟年			11
33	湖山村	鳥取市湖山	?	?	箱式石棺		男	壮年		1952 年出土	12
34	松原 1 号	鳥取市松原	横穴	2.4*2.0	横穴		女	壮年			13
35	露谷? 号	鳥取市青谷町	○?	?	箱式石棺		男	?		1959 年出土	12
36							男	?			
37	宮ノ前	鳥取市青谷町	横穴		横穴		女	壮年			14

表 2-1 東伯耆地域の古墳出土人骨

No.	古墳名	所在地	墳形	規模	埋葬施設の種類	人骨 No.	性別	年齢	順	備考 (副葬品)	文献
1	荒浜	湯梨浜町宇谷	?	?	箱式石棺		男	老年			15
2	宇野村	湯梨浜町宇野	○	径 14	箱式石棺		男	熟年		前頭縫合 (刀、矛?)	16
3	馬ノ山 4 号	湯梨浜町橋津	●	長 100	第 1 箱式石棺		女	成人		(鏡、刀、玉)	17
4					第 2 箱式石棺		女	熟年			
5	長瀬高浜 1 号	湯梨浜町長瀬	○	径 27	第 1 箱式石棺		女	熟年		(刀)	18
6	長瀬高浜 3 号	湯梨浜町長瀬	○	径 20	第 1 石立木棺		?	壮年	2/3	(剣、矛、鏃) 男か	18
7					第 2 箱式石棺		女	壮年	1		
8					第 3 箱式石棺		?	小児	2/3	(玉)	
9	長瀬高浜 5 号	湯梨浜町長瀬	○	径 10	第 1 箱式石棺		女	若年			19
10	長瀬高浜 7 号	湯梨浜町長瀬	○	径 17	第 1 箱式石棺		?	壮年		再葬	20
11	長瀬高浜 9 号	湯梨浜町長瀬	○	径 10	第 1 箱式石棺		男?	熟年		(刀子)	20
12	長瀬高浜 25 号	湯梨浜町長瀬	○	径 16	第 2 箱式石棺	1 号	男	壮年		(刀子)	20
13						2 号	女	壮年			
14						3 号	?	小児			
15	長瀬高浜 28 号	湯梨浜町長瀬	○	径 11	箱式石棺	1 号	女?	青年		下顎骨、歯のみ (剣)	19
16						2 号	?	青年		歯のみ	

表 2-2 東伯耆地域の古墳出土人骨

No.	古墳名	所在地	墳形	規模	埋葬施設の種類	人骨 No.	性別	年齢	順	備考 (副葬品)	文献	
17	長瀬高浜 30 号	湯梨浜町長瀬	○	径 8	第 1 土壇墓	主	?	若年		歯のみ	19	
18					第 2 埴輪棺	周	?	若年		歯のみ		
19	長瀬高浜 32 号	湯梨浜町長瀬	○	径 9	木棺墓	主	?	若年		歯のみ	19	
20	長瀬高浜 SX34	湯梨浜町長瀬	-	-	箱式石棺	周	?	小児		歯のみ	19	
21	長瀬高浜 SX36	湯梨浜町長瀬	-	-	箱式石棺	周	女	若年			19	
22	長瀬高浜 SX42	湯梨浜町長瀬	-	-	箱式石棺	周	?	幼児		乳歯	18	
23	長瀬高浜 SX46	湯梨浜町長瀬	-	-	箱式石棺	周	女?	壮年			18	
24	長瀬高浜 47 号	湯梨浜町長瀬	○	径 8 ?	第 1 石立木棺	主	男	熟年		下顎骨のみ	19	
25	長瀬高浜 SX49	湯梨浜町長瀬	-	-	箱式石棺	周	1号	男	成人	複数人の可能性	18	
26						2号	?	幼児	乳歯			
27	長瀬高浜 SX56	湯梨浜町長瀬	-	-	箱式石棺	周	?	若年		歯、骨片のみ	19	
28	長瀬高浜 SX69	湯梨浜町長瀬	-	-	箱式石棺	周	?	小児		歯のみ	19	
29	長瀬高浜 SX70	湯梨浜町長瀬	-	-	土壇墓	周	?	若年		歯のみ (?、玉)	19	
30	長瀬高浜 75 号	湯梨浜町長瀬	○	径 10	第 1 箱式石棺	主	?	若年		(剣、釣針?、鏃?、玉)	19	
31	長瀬高浜 77 号	湯梨浜町長瀬	○	径 12	第 1 箱式石棺	主	?	壮年		(斧、玉)	19	
32	長瀬高浜 78 号	湯梨浜町長瀬	○	?	箱式石棺	主	男	壮年			19	
33	長瀬高浜 SX79	湯梨浜町長瀬	-	-	箱式石棺	周	女	小児		永久歯萌出前期	19	
34	長瀬高浜 81 号	湯梨浜町長瀬	○	径 8	第 1 箱式石棺	主	男?	壮年			20	
35	長瀬高浜 SX83	湯梨浜町長瀬	-	-	須恵器甕蓋墓	周	?	乳児		乳歯萌出以前	20	
36	長瀬高浜 SX84	湯梨浜町長瀬	-	-	箱式石棺	周	?	壮年			20	
37	長瀬高浜 86 号	湯梨浜町長瀬	○	径 9	第 2 箱式石棺	主	男	熟年		(刀子)	20	
38	長瀬高浜 88 号	湯梨浜町長瀬	○	?	第 1 箱式石棺	主	1号	?	壮年	(刀子)	20	
39	長瀬高浜 SX94	湯梨浜町長瀬	-	-	箱式石棺	周	男?	小児			21	
40	長瀬高浜 97 号	湯梨浜町長瀬	○	径 11	土壇墓?	主	男	熟年		再葬	22	
41	川上 83 号	湯梨浜町鍛冶屋谷	○?	径 23	第 5 箱式石棺	副	1号	女	?	1		23
42						2号	女	?	2			
43						3号	男	?	3			
44						第 6 箱式石棺	副		女	?		
45	東郷村	湯梨浜町	?	?	?	?	女	?			9	
46	寺山 1 号	湯梨浜町別所	?	?	箱式石棺	主	1号	男	熟年		24	
47						2号	女	熟年				
48						5号	?	若年	10代前半			
49	寺山 2 号	湯梨浜町別所	?	?	箱式石棺	主	3号	男	老年		25	
50						4号	女	熟年				
51	イキス 1 号	倉吉市北面	○	径 13	箱式石棺	主	男	壮年			26	
52	イキス 3 号	倉吉市北面	○	径 11	箱式石棺	主	女	成人				
53	イザ原 5 号	倉吉市大谷	○	径 18	第 2 箱式石棺	副	男	青年		再葬	27	
54	イザ原 6 号	倉吉市大谷	○	径 14	箱式石棺	主	1号	女	熟年	鑑定は 1 号か 2 号か不明 (鏡、剣、鉈、玉)		
55						2号						
56	夏谷 1 号	倉吉市和田	○	径 11	第 2 箱式石棺	副	女	壮年		初葬	27	
57	夏谷 2 号	倉吉市和田	○	径 19	第 1 箱式石棺	主	女	若年				
58	夏谷 3 号	倉吉市和田	□	18*16	第 1 箱式石棺	主	1号	男	若年	3	(剣、鏃?、刀子、玉)	27
59						2号	男	壮年	1			
60						3号	女	壮年	2			
61						第 2 箱式石棺	副	男	熟年			
62	夏谷 4 号	倉吉市和田	○	径 12	第 1 箱式石棺	主	1号	男	青年		28	
63						2号	女	青年				
64	夏谷 6 号	倉吉市和田	○	径 15	第 1 箱式石棺	主	女	壮年			28	
65	夏谷 7 号	倉吉市和田	○	径 17	第 1 箱式石棺	主	女	若年				
66	中峰 1 号	倉吉市和田	□	13* 9	堅穴式石室	主	1号	女	壮年	2、3号は歯のみ (玉)	28	
67						2号	女?	小児				
68						3号	男?	壮年				
69	中峰 2 号	倉吉市和田	□	9* 6	箱式石棺	主	女	壮年			14	
70	屋喜山 8 号	倉吉市和田	?	?	箱式石棺	主	1号	女	熟年	2~		
71						2号	男	熟年	2~			
72						3号	女	壮年	3~			
73						4号	男	熟年	1			

表 2-3 東伯耆地域の古墳出土人骨

No.	古墳名	所在地	墳形	規模	埋葬施設の種類	人骨 No.	性別	年齢	順	備考 (副葬品)	文献
75	屋喜山 9 号	倉吉市和田	○	径 20	箱式石棺	主	男	青年		(劍、刀子、玉)	29
76	焼津平	倉吉市津原	?	?	箱式石棺	?	I 号? 男	?		(鉄鏃)	9, 14
77						II 号	女	壮年			
78	大山 1 号	倉吉市鋤			第 1 箱式石棺	主	男	青年			30
79							男	青年			
80	猫山 1 号	倉吉市上神	□	16*16	第 1 箱式石棺	主	女	熟年		1984 年調査	31
81	猫山 2 号	倉吉市上神	?	?	?	?	男	?			9
82							男	?			
83	長谷	倉吉市寺谷?	○?	?	箱式石棺	?	女	壮年			32
84	沢ベリ 16 号	倉吉市不入岡	○	径 17	箱式石棺	主	?	成人			33
85	沢ベリ 17 号	倉吉市不入岡	○	径 13	箱式石棺	主	男	熟年		インカ骨	
86	沢ベリ SX02	倉吉市不入岡	-	-	箱式石棺	周	女	壮年			
87	駄経寺	倉吉市駄経寺町	○	?	箱式石棺	?	女	?			9
88	高畦 2 号	倉吉市みどり町	○	径 20	箱式石棺	主	No. 1 男	熟年	3	(刀、劍、鏃、斧、鑿、鉈、	14, 30
89						No. 2 男	熟年	2		砥石、鉄鋌)	
90						No. 3 女	青年	1			
91	天神野	倉吉市小鴨町	?	?	箱式石棺	?	男	成人			9, 12
92							女?	壮年		市の下古墳と同じか	
93	狼谷	北栄町土下	○	径 21	A 箱式石棺	主	1 号 男	?		1 号は女か (刀、針、玉)	12, 34
94					B 箱式石棺	副	2 号 女	熟年			
95	曲	北栄町曲	?	?	箱式石棺	?	男	壮年			9
96	島 7 号	北栄町島	○	径 20	第 2 箱式石棺	副	1 号 女	壮年	同	2 号と下肢交差	35
97						2 号 女	熟年	同		1 号と下肢交差	
98	島 5 号	北栄町島	○	径 16	箱式石棺	主	男	熟年		(刀)	
99	瀬戸 35 号	北栄町瀬戸	○	径 18	第 1 箱式石棺	主	1 号 男	壮年	2	(刀、刀子)	36
100						2 号 女	青年	1			
101	向畑 1 号	北栄町妻波	○?	?	箱式石棺 A	主	No. 1 男	老年	1	(刀、刀子)	12, 37
102						No. 2 女	熟年	2			
103					箱式石棺 B	副	No. 3 男	熟年		(鎌、刀子)	
104	向畑 3 号	北栄町妻波	?	?	箱式石棺	?	男	熟年			12
105	向畑 4 号	北栄町妻波	?	?	箱式石棺	?	男	熟年			12
106							女	熟年?			
107	妻波 13 号	北栄町妻波	○	径 16	箱式石棺	主	男	壮年		(刀、鏃、鉈)	38
108	妻波 22 号	北栄町妻波	○	径 22	箱式石棺	主	女?	壮年		(劍)	39
109	由良	北栄町由良	?	?	?	?	男?	?			9
110	上種東 3 号	北栄町上種	○	径 12	横穴式石室	主	男?	老年		他に 6 人ほど推定	40
111	南向山	北栄町	?	?	?	?	男	壮年			12
112							女	青年			
113	小屋	北栄町	?	?	箱式石棺	?	男	青年			12
114							女	青年			

表 3-1 西伯耆地域の古墳出土人骨

No.	古墳名	所在地	墳形	規模	埋葬施設の種類	人骨 No.	性別	年齢	順	備考 (副葬品)	文献		
1	山蔵平	大山町高田	?	?	箱式石棺	?	男	?			9, 12		
2							女	?					
3	平 2 号	大山町平	?	?	箱式石棺?	?	男	?			9		
4	尾無原	大山町宮内	?	?	箱式石棺	主	1 号	男	壮年			41	
5							2 号	男	熟年				
6							3 号	女	青年				
7							4 号	女	熟年		前頭縫合		
8							5 号	女?	熟年				
9							6 号	男?	壮年				
10	向原 6 号	大山町豊房	○	径 13	第 1 箱式石棺	主	1 号	女	青年	5, 6	(刀、鏃、刀子)	42	
11							2 号	男	熟年				
12							3 号	男	壮年	3, 4			
13							4 号	男	熟年				
14							5 号	男	老年	1, 2			
15							6 号	男	老年				

表3-2 西伯着地域の古墳出土人骨

No.	古墳名	所在地	墳形	規模	埋葬施設の種類	人骨 No.	性別	年齢	順	備考 (副葬品)	文献	
16	晩田山3号	米子市淀江町	●	長36	第2箱式石棺	副	男	壮年			43	
17	石州府103号	米子市石州府	○	径7	箱式石棺	主	?	若年		(刀子)	44	
18							?	小児		乳歯		
19	石州府108号	米子市石州府	○	径10	箱式石棺	主	?	壮年		(刀、鏃、刀子、耳環)	44	
20							?	壮年				
21	日下12号	米子市日下	○	径13	箱式石棺	主	1号	男	壮年	1/2	(鏃、針、刀子、玉)	45
22							2号	女	熟年	1/2		
23							3号	男	青年	3		
24							4号	女	壮年	4		
25							5号	?	幼児	?		
26							6号	?	幼児	?		
27							7号	?	幼児	?		
28	日下20号	米子市日下	○	径13	箱式石棺	主	1号	女	壮年	1	(鉈)	45
29							2号	男	熟年	2		
30	日下39号	米子市日下	□	13*12	第1箱式石棺	主	1号	女	壮年			45
31							2号	男	熟年			
32	日下45号	米子市日下	□	11*10	箱式石棺	主	1号	男	熟年	(釣針)		
33	シトギメン	米子市奈喜良?	?	?	?	?	女	熟年			12	
34	大塔山A-2号	米子市観音寺	横穴	2.6*2.8	横穴	主	1号	男	熟年		3号は第3大臼歯萌出前(刀、鏃、刀子)	46
35							2号	男	壮年			
36							3号	?	小児			
37							4号	男	壮年			
38							5号	女	壮年			
39							6号	?	乳児			
40							7号	?	乳児			
41	大塔山B-2号	米子市観音寺	横穴	1.8*2.2	横穴	主	?	成人		(刀、鏃、刀子、耳環)	46	
42	大塔山C-1号	米子市観音寺	横穴	1.9*2.4	横穴	主	1号	女?	熟年			(刀、刀子、玉、耳環)
43							2号	男	壮年			
44	大塔山C-8号	米子市観音寺	横穴	2.2*2.2	横穴	主	1号	女	壮年		3号、6号、7号に前頭縫合、5号にインカ骨(鏃、刀子、耳環)	47
45							2号	男	壮年			
46							3号	女	壮年			
47							4号	女	壮年			
48							5号	男	壮年			
49							6号	女	壮年			
50							7号	?	小児			
51	東宗像5号	米子市東宗像	○	径12.5	横口式石室	主	?	壮年		(鏃、刀子、砥石)	47	
52	東宗像東1号	米子市東宗像	横穴	1.5*1.9	横穴	主	女?	若年		(刀)		
53							?	成人				
54	東宗像西1号	米子市東宗像	横穴	2.4*2.2	横穴	主	女	壮年		(刀、鏃、刀子)	47	
55							男	成人				
56	東宗像西2号	米子市東宗像	横穴	2.4*2.1	横穴	主	K-1	女?	壮年		(刀子、砥石、玉)	47
57							K-2	女	壮年			
58							K-3	女	壮年			
59							K-4	男	熟年			
60							K-5	男	壮年			
61							K-6	女	壮年			
62						?	若年					
63	越敷山49号	伯耆町金廻	○	径19	埋1箱式石棺	主	1号	女	若年			48
64							2号	男	熟年			
65	越敷山51号	伯耆町金廻	○	径25	埋1箱式石棺	主	1号	男	熟年	4	(刀、劍、矛、斧、玉)	48
66							2号	男	熟年	3		
67							3号	女	熟年	2		
68							4号	男?	?	1		
69							5号	?	小児			
70					埋2箱式石棺	副	女	壮年				
71	下の峰	南部町朝金	?	?	箱式石棺		男	老年		(刀子、玉)	12	

表3-3 西伯耆地域の古墳出土人骨

No.	古墳名	所在地	墳形	規模	埋葬施設の種類	人骨 No.	性別	年齢	順	備考	文献			
72	北谷ヒナ2号	江府町俣野	横穴	1.9*2.4	横穴	主	No. 2-40	?	小児		No. 2-23、2-80、2-1 にインカ骨、No. 2-64 に前頭縫合 (鍬、刀子、耳環、玉)	49		
73							No. 2-23	女	壮年					
74							No. 2-21	女	熟年					
75							No. 2-80	女	壮年					
76							No. 2-66	男	壮年					
77							No. 2-64	女	壮年					
78							No. 2-1	男	熟年					
79							No. 2-20	女?	熟年					
80							No. 2-90	女?	?					
81							No. 2-46	女?	?					
82							No. 2-16	女?	?					
83	北谷ヒナ3号	江府町俣野	横穴	3.0*2.5	横穴	主	No. 3-28	女	壮年		インカ骨あり (刀、刀子)	49		
84								女	成人					
85								女	成人					
86								女	成人					
87								男	成人					
88								?	小児					
89								?	小児					
90								?	小児					
91	北谷ヒナ4号	江府町俣野	横穴	2.1*2.1	横穴	主	No. 4-51	女	熟年		No. 4-132 の頭骨内に複数人骨 (刀子、耳環)	49		
92							No. 4-113	女	壮年					
93							No. 4-107	女	壮年					
94							No. 4-132	女	壮年					
95								女	成人					
96								女	成人					
97								男	成人					
98								男	成人					
99								男	成人					
100							No. 4-163	?	小児					
101							No. 4-140	?	小児					
102	No. 4-14	?	小児											
103		?	乳児		No. 4-132 頭骨内									
104	印賀6号	日南町印賀	□	8*8	第1箱式石棺	主	1号	女	熟年		2号に前頭縫合 (剣、鉈)	50		
105							2号	男	熟年					
106							第2箱式石棺	副		女			老年	
107							第3箱式石棺	副		?			成人	
108	印賀26号	日南町印賀	?	?	箱式石棺	主		?	壮年		(玉)			
109	内ノ倉山5号	日南町生山	横穴	1.6*1.8	横穴	主	1号	女	壮年	1	姉妹か	51		
110							2号	女	壮年	2	姉妹か			
111	内ノ倉山9号	日南町生山	横穴	1.0*1.8	横穴	主		?	壮年		(耳環)			
112	内ノ倉山10号	日南町生山	横穴	1.0*2.2	横穴	主		男	成人					
113	内ノ倉山15号	日南町生山	横穴	1.5*2.0	横穴	主		女?	壮年		(刀子、耳環、玉)			
114	内ノ倉山16号	日南町生山	横穴	1.7*2.2	横穴	主		男	熟年		(刀、刀子、耳環、玉)	52		
115								女	壮年					
116								男	成人					
117								女	?					
118								?	小児					
119	内ノ倉山17号	日南町生山	横穴	1.0*1.3	横穴	主		?	熟年					
120	内ノ倉山18号	日南町生山	横穴	1.2*1.6	横穴	主		男?	熟年		(鍬、刀子、鎌)			
121	内ノ倉山19号	日南町生山	横穴	1.6*2.4	横穴	主		男	熟年		(鍬、鎌)	52		
122								男	?					
123								女	?					
124								?	小児					

ただし、壮年以前のすべての世代で女性の方が多くに対して、熟年、老年では男性の方が多くなる傾向があり、男女比に差が生じる原因の一つに年齢があるこ

とが窺われる（図1-2）。

最後に、西部の西伯耆地域では、36基の古墳から124人あまりの人骨が見つかっている。このうち、半数近くの18基、76人分が横穴墓からの出土であり、竪穴系の埋葬施設から出土した人骨資料とは異なる性格をもっている可能性がある。とくに子どもの埋葬が19人と多いのは、複数世代にわたる追葬を前提とした横穴墓の特質によると考えられる。年齢別にみると、壮年、熟年の順に多い点は因幡、東伯耆地域と同様であるが、壮年の事例が突出して多く、青年以下の世代が少ない点が地域的な特徴である。また、同一の箱式石棺に5人以上の多数が埋葬される事例が目立つことも特徴と言えよう。初葬者の遺体を棺の端に片付けながら追葬を繰り返す点は横穴系の埋葬原理と同じであり、棺幅が広く設定されていることも、本来多数埋葬（追葬）を想定したものと見えよう。径10mほどの円墳が多いため、横穴式石室導入墳との階層差を指摘できる。

性別鑑定が行なわれた123人のうち、男性は42人に対し、女性は51人、不明は30人であった。30人のうち、性別鑑定困難な子供が19人、10代の若年が2人で、性別不明の成人は9人である。他地域と異なって女性の方が多いが、やはり熟年以降では男女比が逆転し、壮年世代で死亡する女性の事例は男性の2.5倍に達している点が注目される（図1-3）。ただし、6世紀以降の事例が多いので、4～5世紀のより古い資料を中心とする因幡や東伯耆地域と異なった傾向をもつ可能性も考えられ、これを単純に西伯耆地域の特性とみることにはできない。

いずれの地域でも、熟年以上の世代で男性が多くなる傾向をみた。これは、何を意味するだろうか。結論を急ぐと、壮年女性が熟年世代まで生き伸びることが難しい原因を考えるのが妥当であり、最大の要因として出産に伴う死亡が考えられよう。縄文時代の人骨から死亡年齢を推定した小林和正氏（1979）によると、15歳以上では、男性は30～34歳にピークがあるのに対して、女性では20～24歳にピークがずれる。また、古代では、大宝2年御野国加毛郡半布里戸籍の分析によって、男性の出生時平均余命32.5歳に対して、女性のそれは28.75歳とされる。一方、半布里戸籍からは、5歳以下の乳幼児死亡率が50%を超えると考えられ、この高い死亡率を超えて人口を維持するためには、かなりの頻度で出産を繰り返さねばならず、20代後半～30代前半の女性の出生率は高水準だったと試算されている（今津 2005）。このことによって、壮年女性は同世代の男性よりも死亡率が高かったと推測できよう。江戸時代では、結婚後10年以内の妻の死亡率が夫の3倍にのぼるという値も参考になる（鬼頭 2000）。

## 2 女性首長の問題

古墳時代の約350年間の過程を通じて、首長層では父系が重視されるようになり、前期（4世紀）には一定数の女性首長が存在しているが、中期～後期（5～6）を経て男性首長への偏りが生じると考えられている（田中 1995、清家前掲）。そこで、今回集成した人骨資料からこの問題について若干の検討を行なう。

まず、古墳築造の契機となる初葬者の性別が判明する資料は、全体でも40例に満たないのであるが、大きな男女差はないことが判明する。因幡地域では、男性



4例に対して、女性3例、男女どちらが初葬か不明なものが1例ある。前期後半～中期前半までの事例が多いが、後期や終末期の事例もある。とくに松原1号横穴は7世紀後半まで下るが、女性が初葬の事例として注目される。

一方、東伯耆地域では、男性17例、女性12例であり、男女どちらが初葬か不明なものが5例ある。時期が判明するものは前期後半～中期後半の事例が多く、後期以降に下るものは少ないと考えられる。全体では女性が約4割であるが、径20mを超えるやや大きい円墳の被葬者に限定すると、女性は少なくとも5人数えうるのに対し、男性は確実に1人であり、女性首長の方が存在感を示す。

西伯耆地域では初葬者の性別が判明する資料が少ないため、確実に男性2例、女性1例を挙げうるのみである。後期～終末期の事例が多いのであるが、初葬者が男性に偏ると言える証拠はなく、むしろ女性の比率が高い埋葬施設の存在からすると、女性首長がかなり存在したと考えられよう。

なお、前方後円墳の主要埋葬施設に葬られるような、地域を代表するレベルの首長層については、直接の手がかりがないものの、副次的埋葬施設には男女ほぼ同数存在することが判明する。これらの前方後円墳では、主要埋葬施設から男性性を示唆する鉄鏃や甲冑などの副葬品が出土せず、むしろ武器の少なさから女性的とも言える古墳が存在する。消極的な状況証拠ながら、前方後円墳の主要埋葬施設に葬られる女性首長が珍しい存在ではないことを窺わせている。

### 3 被葬者間の関係

同一棺や同一墳丘内に葬られた被葬者間の関係を知る上で注目されるのは、因幡地域の面影山33号墳1号箱式石棺に葬られていた3名である。青年～壮年の男性2名、女性1名が葬られていたが、このうち男性(3号)と女性(2号)の頭骨にインカ骨が見つかった。インカ骨は後頭骨に生じる縫合線の変異の一種で、日本人にはきわめて珍しい変異であること、遺伝する形質であることが知られている。2人のインカ骨は同一位置にほぼ同じ形のものであったことから、非常に近い血縁関係にある者が合葬された事例で、夫婦ではないと考えられた。もう1人の男性(1号)は、頭骨が破片化していたから、他の2人と血縁関係にあるかどうかを確認できないものの、同棺葬の他例から推して、血縁関係にある可能性は高いであろう。下顎骨が遺存しているので、今後歯冠計測値分析などによって関係を追究する余地は残されている。

埋葬順は、骨の風化の程度と大腿骨の重なりによって、男性(3号)、女性(2号)、男性(1号)の順と推測された。埋葬に要した年月が不明なため、3人が血縁関係にあると言っても、親子であるか、キョウダイ(兄弟姉妹)であるかを明らかにしがたい。副葬品や供献土器に明確な時期差があれば、埋葬に要した時間が長期にわたることになり、親子と考える余地が出てくるが、残念ながら副葬品など埋葬期間を検討する手がかりは不十分である。

ただし、年齢と埋葬順が判明する同棺複数埋葬や同一墳丘埋葬の例(表4)を検討すると、一定の傾向があることに気づく。まず、壮年以上の人が初葬の場合、2番目はやや若い世代が後続するケースが多いものの、全体として同世代と言える

表4 年齢と埋葬順の関係

古墳	初葬	2番目	3番目	4番目	5番目	6番目	備考
糸谷3号墳	壮年・女	小児・？	若年・男				1号箱式石棺、親子か
	壮年・男 / 熟年・男		熟年・男				2号箱式石棺
	熟年・男	壮年・男	熟年・女	熟年・女			3号箱式石棺
面影山33号墳	壮年・男	青年・女	青年・男				
円護寺21号墳	熟年・男	壮年・女					
長瀬高浜3号墳	壮年・女	壮年・？ / 小児・？					同一墳丘内、親子含むか
夏谷3号墳	壮年・男	壮年・女	若年・男				第1箱式石棺
屋喜山8号墳	熟年・男	熟年・女 / 熟年・男	壮年・男	壮年・女			
高畦2号墳	青年・女	熟年・男	熟年・男				
瀬戸35号墳	青年・女	壮年・男					第1箱式石棺
向畑1号墳	老年・男	熟年・女					箱式石棺A
向原6号墳	老年・男 / 老年・不明		壮年・男 / 熟年・男	青年・女 / 熟年・男			親子含むか
日下12号墳	壮年・男 / 熟年・女		青年・男	壮年・女			順位不明・幼児3人、親子含むか
日下20号墳	壮年・女	熟年・男					
越敷山51号墳	？・男	熟年・女	熟年・男	熟年・男			第1箱式石棺、順位不明・小児1人、親子含むか

被葬者が多いということである。少数ながら子供や若年世代が2番目や3番目に葬られる場合があって、これは親子の可能性を考えうるが、逆に多くは年齢の近い血縁者であるキョウダイが葬られている可能性が高いと考えられよう。

また、これらの中には、子供や若年層が2番目や3番目に葬られることはあっても、初葬になる例がないことに注意が必要である。実際には若年でも主要埋葬施設に葬られる人物は存在するので、このことは若年層が初葬された後、さらに近親者が追葬される事態が頻繁ではないということの意味していよう。年齢的に子がない可能性も高く、最も自然死亡率が低い世代であるから、若年層が初葬の場合に追葬者が少ないということは自然なことである。しかし、問題は、長生きした子やキョウダイが壮年や熟年に達して追葬されたと考えられる事例もないことである<sup>(3)</sup>。このことは、たとえ血縁関係があつたとしても、一定の時間をおけば、同一の棺や墳丘に埋葬されないことを意味している。

このように考えて良ければ、同棺埋葬や同一墳丘内埋葬で年齢差がある場合は、親子とみることができるとは、年齢差があまりない人々は、基本的に同世代に属するキョウダイとみることが自然であろう。

なお、このようなキョウダイ関係を中心とした埋葬原理は前期～中期前半にみられ、中期後半以降は父子関係を強調した父系的な埋葬原理に変化すると考えられているが、ここで検討した資料では西伯耆地域の多数埋葬の箱式石棺や横穴墓でその可能性を指摘しうる程度である。逆に、北谷ヒナ2号横穴墓のようにインカ骨をもつ同世代の男女が集中すること、内ノ倉山5号横穴墓のように姉妹と考えうるほどよく類似した骨格の人々が同一墓に埋葬されていることからみると、山陰地方では古い埋葬原理が新しい時期まで残存していた可能性を窺わせる。

## おわりに

集成資料をもとに地域の概要を整理してきた。当初予想した以上に資料数があり、半世紀以上にわたって鳥取大学医学部の専門家たちが蓄積してきた情報量の多さに驚くが、これが豊かな古墳時代像や被葬者像の復元に結びついているか問

われると、ずいぶん心許なく感じる。十分論じえなかった点は後日を期したい。

錦織先生とは、10年間同じ職場で歴史環境分野の教育・研究をご一緒させて頂きました。教育・研究の体制づくりから「歴史的環境」の理念に至るまで、たびたび厄介な相談をもちかけましたが、いつも快く応じて頂いたことに深く感謝いたします。これからどうかお元気で過ごしてください。

## 註

- (1) 古い文献で情報の錯綜がみられ、事実を追究しきれなかったものがいくつかあり、推測を記さざるを得なかった。後日補訂して責を果たしたい。
- (2) 年齢区分は、鑑定者によって多様な表現がされているが、ここでは表現を統一するため、1才未満を乳児、1～5才を幼児、6才～おおむね10才代初頭を小児、10才代半ば～19才を若年、20才台を青年、30才台を壮年、40～50才台を熟年、60才以上を老年とする。
- (3) 高畦2号墳における初葬の青年女性(25歳過ぎ)と後続する2人の熟年男性(40歳過ぎ、45歳過ぎ)は、姉と長生きした弟たちと考えるかもしれない。その場合、20年に満たない10数年程度の間隔をおいた追葬はありうることになる。

## 参考文献

- 今津勝紀 2005「古代の家族と共同体-関口裕子『日本古代家族史の研究(上・下)によせて』-」『キリスト教文化研究所研究年報 民族と宗教』第38号、宮城学院女子大学
- 鬼頭宏 2000『人口から読む日本の歴史』講談社学術文庫
- 小林和正 1979「人口人類学」『人類学講座』第11巻、雄山閣
- 清家章 2010『古墳時代の埋葬原理と親族構造』大阪大学出版会
- 田中良之 1995『古墳時代親族構造の研究』柏書房

## 表中の文献

1. 井上貴央 1988「浦富3号墳から検出された人骨に関するコメント」『浦富3号墳発掘調査報告書』岩美町教育委員会
2. 小片保 1959「因幡・縁山2号墳(2)縁山古墳人骨について」『ひすい』573
3. 池田次郎 1994「鳥取県国府町糸谷3号墳出土の人骨」『糸谷古墳群』同志社大学文学部文化学科
4. 井上晃孝 1996「面影山33号墳出土人骨」『面影山古墳群発掘調査報告書』鳥取市教育福祉振興会
5. 鳥取市教育委員会 1989『広岡古墳群発掘調査概要報告』
6. 井上晃孝 1994「六部山古墳群45号墳出土人骨について」『六部山古墳群』鳥取市教育福祉振興会
7. 井上晃孝 1995「六部山古墳群26号墳・28号墳出土人骨について」『六部山古墳群Ⅱ』鳥取市教育福祉振興会
8. 小片保 1962「美和古墳群(18)～(20)古郡家1号墳人骨についての疑問(1)～(3)」『ひすい』95～97
9. 池田次郎 2001「頭蓋計測値からみた山陰地方の古墳時代人」『古代文化研究』No. 9、島根県古代文化センター
10. 岡田吉郎他 1983「円護寺21号墳出土人骨・23号墳出土顔料の鑑定」『円護寺遺跡群』鳥取県教育文化財団
11. 井上貴央 1985「里仁32号墳第1号埋葬施設第2号石棺より検出された人骨について」『里仁古墳群』鳥取県教育文化財団
12. 新修米子市史編さん協議会 1999「新潟大学所蔵 小片保 山陰人骨コレクションリスト」『新修米子市史』第7巻資料編・考古
13. 井上貴央他 2010「松原小奥遺跡、松原1号横穴墓から出土した人骨について」『松原古墳群Ⅱ・松原小奥遺跡』鳥取県教育委員会
14. 九州大学医学部解剖学第二講座 1988『日本民族・文化の生成』2

九州大学医学部解剖学第二講座所蔵古人骨資料集成、六興出版 15. 鳥取県埋蔵文化財センター1986『鳥取県の古墳』 16. 清野謙次 1928『日本石器時代人研究』岡書院、金高勘次 1929「伯耆国東伯郡宇野村古墳人骨に就て」『史前学雑誌』第1巻第4号 17. 山陰考古学研究所 1978『山陰の前期古墳文化の研究Ⅰ』東伯耆Ⅰ・東郷池周辺 18. 池田次郎 1983「長瀬高浜遺跡出土の人骨について」『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅴ』鳥取県教育文化財団 19. 井上晃孝 1983「昭和54～56年度出土人骨の報告」『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅴ』鳥取県教育文化財団 20. 井上貴央 1983「長瀬高浜遺跡より出土した人骨と動物遺体について」『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅵ』鳥取県教育文化財団 21. 井上貴央 1997「長瀬高浜遺跡 SX94 石棺から検出された人骨について」『長瀬高浜遺跡Ⅶ』鳥取県教育文化財団 22. 井上貴央 1999「長瀬高浜遺跡から検出された人骨と獣骨について」『長瀬高浜遺跡Ⅶ・園第6遺跡』鳥取県教育文化財団 23. 東郷町教育委員会 1994『川上 83 号墳発掘調査報告書』 24. 清野謙次 1928『日本石器時代人研究』岡書院、金高勘次 1929「伯耆国東伯郡東郷村大字別所字寺山古墳人骨（頭蓋骨）の人類学的研究」『人類学雑誌』第44巻第2付録 25. 井上晃孝 1988「出土人骨について」『イクス遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 26. 井上晃孝 1983「箱式石棺内出土人骨について」『イザ原古墳群・小林古墳群発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 27. 井上晃孝 1996「夏谷遺跡 E・H 地区からの出土人骨」『夏谷遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 28. 井上晃孝 1998「中峰古墳群出土人骨」『中峰古墳群発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 29. 井上晃孝 1983「屋喜山 9 号墳出土人骨について」『四王寺地域遺跡群遺跡詳細分布調査報告書』倉吉市教育委員会 30. 新編倉吉市史編集委員会 1996『新編倉吉市史』第1巻古代編 31. 倉吉市教育委員会 1985『猫山遺跡-第3次発掘調査概報-』 32. 清野謙次 1928「伯耆出雲より周防へ」『民族』第3巻第6号、金高勘次 1929「伯耆国東伯郡灘手村大字寺田字長谷古墳より出土せし人骨に就て」『人類学雑誌』第44巻第2付録 33. 井上晃孝 1996「沢ベリ遺跡 2 次調査出土人骨」『不入岡遺跡群発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 34. 谷田亀寿他 1956「伯耆・土下狼谷古墳」『ひすい』30 35. 井上貴央他 2000「島古墳群 5 号墳と 7 号墳から検出された人骨について」『島古墳群・米里三ノ寄遺跡・北尾釜谷遺跡（北尾古墳群）』鳥取県教育文化財団 36. 井上晃孝 1998「瀬戸 35 号墳出土人骨」『瀬戸岩子山遺跡発掘調査報告書』大栄町教育委員会 37. 大村俊夫他 1956「伯耆・向畑古墳」『ひすい』27 38. 岡田吉郎他 1980「妻波 13 号墳出土の人骨と歯牙について」『妻波古墳群発掘調査報告』大栄町教育委員会 39. 岡田吉郎他 1980「妻波 22 号墳出土の人骨と歯牙について」『妻波古墳群発掘調査報告』大栄町教育委員会 40. 寺門之隆 1976「上種東古墳群第3号墳の人骨」、宮川徂 1976「上種東古墳群第3号墳出土の歯牙について」『上種東古墳群第3号墳発掘調査報告』大栄町教育委員会 41. 金高勘次他 1930「伯耆国西伯郡高麗村大字長田尾無原古墳人骨に就て（1）、（2）」『史前学雑誌』第2巻第1号、第2巻第2号 42. 井上晃孝 1982「向原 6 号古墳の埋葬遺体」『向原古墳群』大山町教育委員会 43. 淀江町教育委員会 2000『妻木晩田遺跡』 44. 井上貴央 1989「石州府遺跡から検出された人骨について」『石州府古墳群発掘調査報告書』米子市教育委員会 45. 井上貴央 1992「日下古墳群より検出された古墳時代人骨について」『日下古墳群発掘調査報告書』米子市教育委員会 46. 井上貴央 1987「大塚山横穴墓群から検出された人骨について」『大塚山横穴墓群』鳥取県教育文化財団 47. 井上貴央 1985「東宗像遺跡より検出された人骨について」『東宗像遺跡』鳥取県教育文化財団 48. 井上貴央他 2013「金廻家ノ上ノ内遺跡から検出された人骨について」『金廻家ノ上ノ内遺跡・越敷山古墳群（金廻地区）』鳥取県教育文化財団 49. 井上貴央 1990「北谷ヒナ横穴群より検出された人骨について」『北谷ヒナ横穴群発掘調査報告書』江府町教育委員会 50. 井上貴央 1992「印賀古墳群より検出された人骨について」『印賀古墳群』日南町教育委員会 51. 井上貴央 1986「日南町内ノ倉山横穴より検出された人骨について」『内ノ倉山横穴群発掘調査報告書』日南町教育委員会 52. 井上貴央 1989「日南町内ノ倉山横穴群に埋葬されていた古墳時代人骨」『発掘調査報告書内ノ倉山横穴群Ⅱ』日南町教育委員会